

The Reminiscence of Exellia NG+1

はじまりの凱歌（終）

作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：150000 点
- ・ 資金：282000G
- ・ 名誉点：1850 点
- ・ 成長回数：289 回
- ・ マジテックトームストーン：戦記 600 個、詩学 150 個
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上／防具ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 15（+増強増分 2）まで

制限事項

- ・ 放浪者／蛮族 PC 禁止
- ・ バニラ流派入門・秘伝使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ報酬成長回数が 10 以上のとき、その 6 割の偏重割り振りの禁止
- ・ 戦利品判定は振ってくれ。

その他注意事項

- ・ レベル制限逸脱 PC の Lv シンク
- ・ ステータス制限逸脱 PC のステータス再振り分け
- ・ 成長回数制約逸脱時の強制デッドエンド

導入

君達は、隠れ家で食事をしていた。

（※GM メモ：RP 待機）

そこへ、エクセリアが訪れる。

少し悩んだ様子で、エクセリアは君達を見ている。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…律に言われただろ？新たな冒険を提供するって。とすれば行き先はどこなのかと考えて…で、近場にひとつ、思い当たるものがあった」

(※GMメモ：RP待機)

PC への選択肢

- ・ 思い当たるもの？
- ・ それは一体、どんな場所…？

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「龍刻連邦の隣国にして、安全保障上必要不可欠な国家。
連合国のひとつにして、かつては帝政だった——ヴァルマーレだ」

(※GMメモ：RP待機)

ヴァルマーレ。その国の名が示されたとき、君達は少しばかり驚くことになるだろう。

見識（セージ知識）判定 目標値：25

成功時、ヴァルマーレが鎖国中であることを思い出す。

失敗時は的外れな発言をすることになる。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「ああ。ヴァルマーレは現在進行形で鎖国中だ。だが、蘆田の好意で、君達には特別に、君達を客人としてもてなすことが閣議決定されたそうだ。

…もっとも、蘆田は何か別の目的があるようだったがな…」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、エクセリアはヴァルマーレを指し示す。
ヴァルマーレには、大きく分けて2つの領域が存在する。
東ヴァルマーレの「等護」、西ヴァルマーレの「淵夏（エナツ）」だ。
そのうち、等護は目的地として指し示されている。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「が、問題はその条件だ…。

ヴァルマーレを強襲する、フェルニゲシュの末裔のドラゴンたちの撃退。君達がこれを達成したのならば、ヴァルマーレに正式に招待する、とのことだ」

そう言って、エクセリアは書物を閉じる。
え、書物？

(※GMメモ：RP待機)

君達の疑問を見て、露骨に癒やそうな顔をする。

エクセリア

「悪かったな、字が読めて。ヴィンハイムのオーベックに叩き込まれたんだよ」

(※GMメモ：RP待機)

ともあれ、新たな地域に至るには、この課題を片付けなければならないようだ。

等護防衛戦

(※GMメモ：BGM「戦神の教義 ～皇都イシュガルド防衛戦～」)

君達が駆けつけると、既に戦闘が始まっていた。

シンダー・カーラ

「遅かったじゃないかビジター！早速だが、襲撃者の撃退を開始するよ！」

(※GMメモ：RP待機)

V.IV ラスティ

「こちら V.IV、ラストィ。対竜ランチャーの準備は完了している。エーテルの充填はこちらに任せてくれ」

(※GMメモ：RP待機)

そうこうしているうちに、竜の群れが襲いかかる。

敵：フェルゲニック・ワイバーン×8、フェルゲニシュ・ドラゴネット×2

特殊敗北条件：V.IV ラスティの HP0 以下

V.IV ラスティ

「巨竜に反応あり！これは…エネルギーをためている…！？」

チャティ・スティック

「攻撃に備えろ。V.IV はランチャーを撃つんだ」

V.IV ラスティ

「了解した」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、巨竜を射撃して叩き落とすラストィ。その射撃の腕はどこから来たのだと聞きたくなるほどのものだ。

しかし巨竜は、君達に殺意を向けて咆哮した。

敵：フェルゲニック・ヒュドラー

フェーズ進行条件：フェルゲニック・ヒュドラーの HP を 80%以下にする。

君達はフェルゲニック・ヒュドラーを迎撃した。

しかし固い、倒せるとは思えないほどに。

フェルゲニック・ヒュドラーが咆哮すると、君達はその音圧のあまり座り込んでしまう。

(※GMメモ：RP待機)

フェルゲニック・ヒュドラーは「カータライズ」の構え。

V.IV ラスティ

「竜が焼き払ってくるぞ！防衛ラインを第一次防衛線まで下げてくれ、私は逃げ遅れの救助に向かう！」

そう言って、ラストィは定位置から離脱する。

フェルゲニック・ヒュドラーの焼却攻撃から退避せよ。

敵：フェルゲニック・ドラゴンフライ×6

(※GMメモ：6ラウンド以内にフェルゲニック・ドラゴンフライを撃退しつつ、乱戦エリアから離脱することで退避を完了させることができる)

退避し、等護を守る魔法障壁の外縁部に到達した。

畳みかけるように、巨竜が襲いかかってくる。

敵：フェルゲニック・ヒュドラー

フェーズ進行条件：フェルゲニック・ヒュドラーのHPを60%以下にする。

君達はフェルゲニック・ヒュドラーを再び迎撃した。

フェルゲニック・ヒュドラーの「フレイムブラスト」

フェルゲニック・ヒュドラーの放った火炎が、魔法障壁外層を一撃で破壊した。

シンダー・カーラ

「魔法障壁が一撃で！？ビジター、後方に撤退して、仲間と合流するんだ！」

(※GMメモ：RP待機)

君達は、指示通りに撤退した。

それを勝ちと感じ取った竜は、続けて敗北者を追撃する。

敵：フェルゲニック・ワイバーン×6、フェルゲニック・アーマードラゴン×2

君達は、増援のドラゴンたちを撃退した。

役に立たなかったことを察知し、フェルゲニック・ヒュドラーが君達を襲撃する。

敵：フェルゲニック・ヒュドラー

フェーズ進行条件：フェルゲニック・ヒュドラーの HP を 40%以下にする。

君達は、フェルゲニック・ヒュドラーを更に迎撃した。

フェルゲニック・ヒュドラーの「フレイムブラスト」

フェルゲニック・ヒュドラーの放った業炎が、魔法障壁中層を燃やし尽くした。

シンダー・カーラ

「おいおい、中層までもかい！ビジター、もう少し力を振り絞るんだ！

トーレスのとこまで撤退しつつ、奴を殴り続けるんだ…！」

敵：フェルゲニック・ヒュドラー

フェーズ進行条件：フェルゲニック・ヒュドラーの HP を 20%以下にする。

撤退しながら、君達はフェルゲニック・ヒュドラーを迎撃した。

しかし負けじと、フェルゲニック・ヒュドラーは増援を咆哮にて呼ぶ。

トーレス

「副長代理。訓練を実戦に変えるのはなんだ？分からんか、それはイメージ。想像せよ、防衛隊諸君。一発で邪竜戦争の終結に向けて一歩進むのだ！」

敵：フェルゲニック・ドラゴネット×4、フェルゲニック・アーマードラゴン×2

君達は増援を撃退した。トーレスの——プトレマイオスのもとに、大量のドラゴンが押し寄せる。

トーレス

「クソ、こうも数が多いと、プトレマイオスの力をもってしても撃退は困難だ…！」

冒険者諸君！私はプトレマイオスの機動力を活かして群れを引き離す！どうにか持ちこたえてくれ！」

再びフェルゲニック・ヒュドラーが咆哮する。

ヴァルマーレの衛士

「これは！…冒険者、強力なプレスが来る！我々が防壁を張る、耐えている内に撃退してくれ！」

敵：フェルゲニック・ヒュドラー

君達はフェルゲニック・ヒュドラーを撃退した。

(※GMメモ：RP待機)

シンダー・カーラ

「やったよ、ビジター…。ヒュドラーを撃退したんだ…！」

喜びが漏れた声音で言うシンダー・カーラ。

トーレス

「…なるほどな、これが、蘆田が言っていた『危険』か…」

そう言って、トーレスは空を見上げる。

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「ひとつ、忠告しておく。ここから先の地獄は、この俺でさえ予想しなかった…『宗教の欺瞞』と呼ばれるものとの戦いだ」

そう言って、トーレスは君達をプトレマイオスに乗せるだろう。

プトレマイオスの一室に、エクセリアもいた。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「私は別件で行く用事がある。ただそれだけのことだよ」

そう言って、エクセリアは本を読み耽るだろう。

トーレス

「これより本艦は、白樺澄基地へ航行する」

新たな場所へ ～The Reminisce of Exellia NG+1 Finale 2～

数週間後——

出航前のプトレマイオス・客入室

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアは、熟読しているのか、君達の視線にも目をくれず、黙ってページをめくっている。

そこへ、トーレスが訪れる。

トーレス

「先ほど、本家から連絡があった…。帝都が邪竜の眷族の襲撃に遭い、数体のワイバーンが侵入したらしい。神宮守衛が撃退したとの報告は受けてはいるが、ヴァルマーレは厳戒態勢を敷き、警戒を強めているという」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「帝都への侵入を許してしまうとは…。

やはり、帝都の魔法障壁、通称『結界』を喪ったことが大きいか。

先に緊急帰国したミシガン総長は、守衛団本部で防衛の指揮を執っておられる。条件は満たされた故、本国は歓迎ムードになると考えていたのだが…どうやら、この目標は難しいらしいな」

そう言って、トーレスは君達の手元にコーヒーを持ってくる。凍えるほどに冷え込んだ冬場に、死闘を繰り広げて体が温まったとはいえ、この差し入れは歓迎すべきものだ。

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「なあに、推定罪人を保護するなんて、しみつたれた目的で呼んだわけではない。ただ、蘆田は君達に手伝って欲しいことがあるようだな。新たな冒険への誘い、そそられるだろう？俺とて、難しい目標を照準して撃ち抜くのはそそられる」

(※GMメモ：RP待機)

しかしな、とトーレスは考え始める。

そこで、部屋の隅で本を読み耽っていたエクセリアが、君達に視線を移す。

エクセリア

「程々にしておけよ、トーレス。また殺されたいのか？

…まあいい、私も諸用があるんだ、それを片付けに行く…ただそれだけだ」

(※GMメモ：発言者＝エクセリア)

——神と律を喰らい破滅を食い止め、英雄は東へ向かう。

その心に渦巻く、探求欲に従うがままに——

(※GMメモ：発言者＝GM)

The Reminiscence of Exellia NG+1 新生編 終

「蒼天のヴァルマーレ」につづく

報酬

基本項目

- ・ 経験点：なし
- ・ 資金：6000G
- ・ 名誉点：50 点
- ・ 成長回数：なし

トームストーン

- ・ マジテックトームストーン〔戦記〕：400 個
- ・ マジテックトームストーン〔詩学〕：300 個

その他

- ・ 称号「新生の追想録を走りきった者（ザ・トレイルブレイザー）」